

ゆたかな労働と 生活の場をめざして

発行. 社会福祉法人ときわ会 〒187-0032 小平市小川町 2-1159 番地
URL <http://www.asayake.or.jp>

あさやけ
だより
No. 470

あさやけ作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-4575
あさやけ第二作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-1564
サングリーン	小平市小川町 1-943 番地	TEL 042-345-1585
あさやけ鷹の台作業所	小平市小川町 1-411 番地	TEL 042-346-2167
共同ホームつくしんぼ	小平市小川町 1-944-30 番地	TEL 042-342-7550
共同ホームこげら	小平市上水南町 2-21-17 番地	TEL 042-325-8716
共同ホームサンライズ	小平市小川東町 5-2-11 番地	TEL 042-346-0472
地域生活支援センターあさやけ	小平市小川東町 4-2-1 番地	TEL 042-345-1741
	小平元気村おがわ東 1 階	
共同ホーム一歩	小平市花小金井 7-2-24 番地	TEL 042-349-0305
あさやけ鷹の作業所	小平市中島町 3-8 番地	TEL 042-349-2366
共同ホームはやぶさ	小平市小川町 1-497-13 番地	TEL 042-313-6269
共同ホームさらさ	小平市小川東町 5-2-12-1 番地	TEL 042-313-2217



ホームの朝食

我が息子は重度の自閉症、風の作業所に通い始めてあっという間に十年が経ちました。

息子の生涯を見据えた今の課題は、親元から離れた生活の場、グループホームに送り出すことです。施設でなくホームを希望するのには理由があります。これまで短期入所制度を利用して、市内外の施設やホームを色々体験し、親も多くのホームを見学し、学習させて頂きました。自閉症の息子にとって、大勢の集団の中で過ごすことは苦痛だったようで、施設の話をするに嫌だ、と一生懸命訴えます。母の入院でやむを得ず2か月過ごした時は、本人から笑顔が一切消え無表情になって帰宅しました。一方、ホームで過ごした時は笑顔で帰宅し、次はいつだ？と楽しみにしています。アットホームで個人の個性を受け入れてもらえるホームがこの子には合っていると実感しました。そして重度の障害を理解し受け入れて下さる、ときわ会へなら安心して送り出せます。

安心して暮らせるホームを地域に

あさやけ風の作業所・保護者

熊川 葉子

ときわ会の「はやぶさ」「さらさ」両ホームの建設に当たっては、大変なご苦勞をされた事をお聞きしました。土地、物件探しから消防法などの設置基準、近隣の方々との話し合い。保護者の皆さんも奔走されたと聞いています。これではすぐに次のホームは厳

りそうです。グループホームを終の棲家と考えていたのですが、それは期待できない現状です。このままではいけません。この状況を打開し、現在の利用者たちが安心して暮らせるために、そして次に続く利用者のために、ときわ会や保護者みんなで考え、動き、解決していかなければと思います。そして多くの皆さんからのご支援をお願いします。

現状と今後についてお話し頂きました。その内容は大変厳しく、資金不足、人材不足が著しく、重度利用者の休日の日中活動支援をはじめ、三六五日稼働は極めて難しいとの報告をうけました。このままでは新規建設は夢のまた夢とな

仲間紹介

ひとりひとりが太陽

お仕事頑張っています

宇津本 海さん

(あさやけ風の台作業所)



宇津本海さんは歌が上手でダンスも得意、そして絵もたくさん描けるいわば表現の人です。日常ではかなりマイペースなので早く早くと言われることが多いですが、本人はいたっておらか、にっこり、のんびりと言った具合です。宇津本さんの楽しみは何と云っても休憩時間と昼休み、チャイムが鳴ると急いで一階の仲間の所に行きます。みんなの中に入りCDを聴いたり、スマホを見ている先輩たちのそばに行き画面をのぞいたり、ちよっかいを出して怒られたり、とても楽しそうです。昼休みは名探偵コナンの曲でパフォーマンズ。この曲がかかるとお弁当を中断して曲に合わせてカッコよく歩きます。曲が終わると残りのお弁当を食べ、作業開始のチャイムが鳴ると残念そうに二階へ戻ります。もっと遊んでいたいんですね！

宇津本さんは学校を卒業し、二〇一七年に作業所に入所しました。毎日休まずにリュックを背負って元気に作業所に登所します。仕事は自主製品班で染めもの

家族から

色々な面で成長している息子

息子は、コミュニケーションが取りにくく、身辺自立もできず、多くの介助が必要です。だからこそ多くの方に理解してもらい、誰にでも手助けしてもらえるように、グループホーム入居を希望していました。

本人は人が好きで、好奇心が旺盛なので「一歩」での生活にスムーズに入っていけると思っていました。大を出したり、壁や床を叩くなどうるさくするので、すでに入居されている皆さんに迷惑をかけると心配しておりました。ところがいざ入居してみると、皆さんが優しく受け入れてくださって、我が物顔で「一歩」中をウロウロしていても、「大ちゃん、大ちゃん」と声をかけてくれます。自宅での生活とは違い、刺激が多くあり、色々な面で成長していることがうかがわれ、家族で喜んでいきます。

山本 雅子



花小金井七丁目にある共同ホーム一歩は、二〇〇一年二月に都内第一号の重度身体障害者グループホーム事業として開設しました。それから十八年が経ち、開設当初からの入居者は六名ですが、新しく入居した知的障害の方も含めて、十名で楽しい一歩の暮らしを送っています。

気の会った仲間と地域で暮らす —— 共同ホーム一歩の生活 ——

一歩の生活は快適です！

一歩の入居者の部屋は個室です。一歩で生活をして、自分で自由に動けるのが楽しいことです。毎日風呂に入れることも、体が清潔になるので嬉しいです。湯船に入ると一日の疲れも取れると気持ちもスッキリします。ご飯を作ってくれる助け合いグループひまわりの人です。料理を作るのが上手で、とてもご飯は美味しいです。

僕は、作業所から帰って、六時から風呂に入って、それから夕飯を食べて、七時半過ぎに部屋に戻り、テレビを見ながらメールをしています。一歩の生活は快適です。親たちも後期高齢者が増えてきました。一歩が一年を通して毎日利用できたら、どんなに親子が安心して生活ができるかと思えます。いつか実現できる時を夢に見続けています。

柳原 昭三



夜勤バイトを経験して

友人の紹介をきっかけに、夜勤バイトとして働かせて頂いてから早いもので一年が経ちました。見学・研修時に、一歩の、夜勤者と利用者さんの距離の近さ、毎日の暖かな雰囲気になれ、ここで働きたいなと思いました。

一方で、果たして一人で、責任ある介助のお仕事ができるのかという不安も大きくなりました。実際、介助をしたことで初めてわかる難しさもありました。試行錯誤する私を、利用者さんは暖かく受け入れてくださいました。そのことが今でもこのお仕事を続けられている大きな要因だと思います。

私には日々のルーティーンワークがあります。学校に行く途中、安い自動販売機でコーヒーを買うことです。それと同じ(?)ように、利用者さんにも毎日のルーティーンがあることを感じます。それが円滑に進むよう、またその毎日に少しでも笑顔を増えられるように、あと一年間たくさん学びながらお世話になりたいと思っております。宜しくお願いします。

渡邊 尚輝





鷹の台作業所 ART SHOP OPEN

鷹の台作業所の2階にアートショップがオープンしました。メンバーたちの作る手織り商品や染め物、楽しい雑貨をいつでも見ていただけます。ショップはみんなの作業室の中なので、すぐ横でメンバーたちがマフラーを織っていたり、下請けの作業をしています。メンバーたちの仕事の様子もぜひご覧になってください。まだお客さんは少ないですがこれから大いに宣伝して、地域の方々と交流の場にしていきたくと思っています。季節ごとのセール販売やワークショップも企画する予定です。ブログ、インスタグラムで情報を発信しますのでそちらもぜひご覧ください。



メンバーたちから地域のみなさんへ

- ・地域の人に来てほしいです。(黄子)
- ・オリジナルの小物もあります。是非来てください。(T・M)
- ・がんばってます。(内倉)

鷹の台作業所アートショップ

営業：月～金 10:00～15:00
 不定休：(ブログなどで確認してください)
 ブログ：<https://blogs.yahoo.co.jp/takanodalasayake>
 インスタ：あさやけ鷹の台作業所

家族から



河久保 敦美

一步に入居して早十七年
 入居当時は、九人の仲間と二泊からスタート、四泊、五泊になり、国制度の運営に移行してからは週六泊となりました。介助者の問題を抱えながらも、私たちの希望をかなえて下さっています。感謝です。本人は一步の若いスタッフの皆さんと楽しく、会話も弾み過ぎてしまっています。親にも精神面の不安定さがみられます。親たちも十七年前に比べ、超高齢になって、近い将来一步が居住の場として、三六五日を目標になることを切にお願いしたいです。



皆さんとの交流が嬉しい

弟の世話をするようになってから早いもので数年が経ちます。一步での滞在も週に六日と増え、本人も自宅より一步での生活が好きで、本望なのではないでしょうか。以前はあまり人とのコミュニケーションを取るのを嫌がって、よくプライベートの確保された部屋で一人ですごしていましたが、人に思っています。しかしながら最近ではスタッフや入居者の皆様のお蔭もあってか、人懐っこさが少しは出てくるようになり、大変喜ばしく感じております。

簡井 泰介

昨年末に音楽イベントにお邪魔しましたが、後ろの座席から見ると、スタッフの方に顔を傾けるように寄り添っていて、大変驚き印象深かったです。今後とも充実した一步での生活を続けていってほしいと切に願っているところです。



高橋 信子

三六五日楽しく一步で生活を
 入居当初は、週二日間の宿泊からでした。それでも腹痛やら、月曜の朝になると玄関で大きなため息をついたり、一二年はいろいろとありました。十七年が過ぎた今頃は、学生さんや入居者の方と仲良く生活が出来るようになりました。口数の少ない子が学生さんにメールでアタックして、野球観戦にも行って来ました。最近六日間の宿泊になり、本人は一日しか家に居られないと言っていますが、親としては三六五楽しく一步で生活出来る事を願っています。



消えてしまった障害のある人

舞台の一つは、岩手県陸前高田市。高台にある共同作業所「あおざり」では、津波の直接的な被害は免れたものの、仲間の一人を失って落胆する利用者たちを女性の所長が励ましなが、一日も早く障害のある人が日常を取り戻せるように一步を踏み出そうとしていた。また、全国障害者ネットワークでは、東京、秋田、岩手、福岡など全国のグループが連携して支援活動を始めようとしていた。そんな矢先、「障害者が消えた」という情報が入ってきた。多くの避難所をまわっても、障害のある人の姿がほとんど見当たらないというのだ。

2011年3月11日

東日本大震災、障害のある人と支援者の物語

苦悩する支援者

一方、福島第一原子力発電所事故によって避難を余儀なくされた地域の一つ、南相馬市では、避難できずに取り残されている障害のある人の存在を知った共同作業所「クロスロードハウス」の代表らが、自らの手で調査に踏み切ろうとしていた。被災地各地に支援センターが設置され、次々と支援物資が送られ、全国各地から支援員が集まってきた。しかし、各地の障害のある人の安否確認を進める中で、彼らに立ちほだかる障壁があった。それは、個人情報保護を理由に開示されない、障害のある人の情報だった。法律によって守られる人権と、一刻を争う人命救助との狭間で苦しむ支援者たち。全国障害者ネットワークでは、この障壁を打ち破る手立てを模索していった。

—試写会を見て—

震災当時の困難な局面が、群像劇として描かれていました。障害がある当事者の役者の演技に圧倒され、たくさんのシーンが印象に残る映画でした。

あさやけ第二作業所職員 丸山

避難所から「障害者が消えた」・・・
障害があるからこそ、優先されなければならないのに・・・なぜ
そこに立ちほだかる個人情報保護法の壁。
複雑な思いに駆られる映画でした。

地域生活支援センターあさやけ職員 川村

上映会開催のお知らせ(無料ご招待)

各回先着 40名様

◆日にも 2019年4月10日(水)、11日(木)、12日(金)

◆時間 18:15～ 上映開始

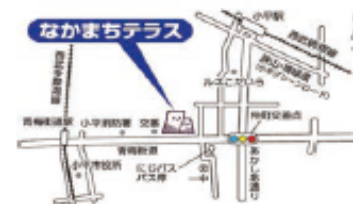
◆場所 なかまちテラス 地下ホール

◆お問合せ 映画「星に語りて～Starry Sky～」上映事務局

Mail: stary_sky@asayake.or.jp

TEL: 042-345-1664 FAX: 042-347-3315(あさやけ第二作業所)

上映会参加ご希望の方は、お問い合わせ先までご連絡ください。



廃品回収のお知らせ

2月の廃品回収の回収量は9,745kgでした。内訳は新聞6,685kg、雑誌・ダンボール3,060kgです。収益は小平市の資源回収補助金も含めて168,035円でした。

次回は4月20日(土)が回収日です。

雨天の場合は中止とさせていただきます。